

## 花火の製造方法

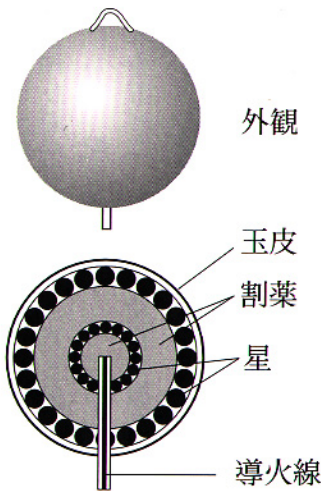
花火玉は大きく分けて「星」「割薬」わりやく「玉皮」たまかわの三つのパーツから作られます。

「星」は花火が開いた時に、光の花びら一つひとつになるものです。花火の種類によつて星の作り方もいろいろあり「打ち星」「切り星」「掛け星」「先割れ星」などの種類があります。その中でも最も一般的なものが掛け星です。「割薬」は玉を破裂させ、中に入っている星に点火して四方にまき散らす役割を果すもの。「玉皮」はこれらを包む一番外側の部分を指します。

テクノロジーの発展でさまざまな製造現場が機械化される中、花火は最初から最後まで手作業で作られていきます。機械まかせにするには作業が危険なこと、コストの問題、手作りの方が質の高い花火ができるこ

と、などの理由から機械の導入が進まなかったと考えられています。しかしそのために、他ではまねのできない伝統の技が現在にまで受け継がれてきたともいえるでしょう。

危険が伴う花火作りの工場は、いくつもの工程ごとに分けられています。事故発生時の被害を最小限に抑えるため、一つひとつの作業場は小規模に造られ、人員、持ち込む火薬の量なども条例で細かく規制されています。



花火玉